

産業技術総合研究所 平成 27 年度 研究評価委員会（情報・人間工学領域）  
議事要旨

1. 日時：平成 28 年 2 月 17 日（水）10:00～17:30

2. 場所：産業技術総合研究所 つくばセンター 中央第 1 事業所 ネットワーク会議室

3. 議事

- (1) 開会挨拶
- (2) 委員紹介・資料説明
- (3) 領域による説明（質疑含む）（議事進行：横塚 裕志 評価委員長）
- (4) 総合討論・評価委員討議・講評（議事進行：横塚 裕志 評価委員長）
- (5) 閉会挨拶

4. 議事概要

(1) 情報・人間工学領域の説明と質疑応答

資料 4～6 に基づき、1. 領域の概要、2. 「橋渡し」のための研究開発、3. 「橋渡し」のための関連業務、について説明が行われ、それぞれについて質疑応答が行われた。1. 領域の概要では、(1) 領域全体の概要・戦略、(2) 研究開発の概要、の 2 項目について説明が行われ、研究部門と研究センターのミッションの相違点、研究マネジメントについての評価方法、等について質疑応答が行われた。2. 「橋渡し」のための研究開発では、(1) 「橋渡し」につながる基礎研究（目的基礎研究）、(2) 「橋渡し」研究前期における研究開発、(3) 「橋渡し」研究後期における研究開発、の 3 項目について説明が行われ、(1) 「橋渡し」につながる基礎研究（目的基礎研究）では、具体的な研究開発成果として、主に、「テラーメイド化を目指したニューロリハビリテーションの開発」と「高機能クラウド暗号化技術」について説明が行われ、成果の達成度、論文発表数の目標値の妥当性、等について質疑応答が行われた。(2) 「橋渡し」研究前期における研究開発では、具体的な研究開発成果として、主に、「次世代人工知能の基盤技術の開発」と「災害対応・インフラ維持管理ロボット技術」について説明が行われ、人工知能研究センターにおける研究の方向性、ロボット技術に関する知的財産の戦略、民間企業との連携、等について質疑応答が行われた。(3) 「橋渡し」研究後期における研究開発では、具体的な研究開発成果として、主に、「ドライバ状態評価技術の開発」と「生活支援ロボット等の効果安全基準策定評価事業」について説明が行われ、日本の社会問題に対応させたテーマ設定の適切性、研究資金全体に占める民間からの資金の割合、等について質疑応答が行われた。3. 「橋渡し」のための関連業務では、技術的指

導助言等の取組状況、マーケティングの取組状況、大学や他の研究機関との連携状況、業務横断的な取組、について説明が行われ、コンサルティング、産業界との連携、人材育成、等について質疑応答が行われた。

(2) 総合討論

海外との人材交流など研究マネジメントを含めた情報・人間工学領域の研究活動全般について総合討論が行われた。

(3) 評価委員討議

今回の評価に関して、評価委員による討議が行われた。

(4) 講評

評価委員長より情報・人間工学領域に対する講評が行われた。

5. 評価委員（敬称略、順不同）

横塚 裕志	情報サービス産業協会 会長（評価委員長）
小松 文子	情報処理推進機構 技術本部 セキュリティセンター 情報セキュリティ分析ラボラトリー ラボラトリー長
澤谷 由里子	東京工科大学 コンピューターサイエンス学部／大学院 アントレプレナー専攻 教授
杉本 昭彦	株式会社 日経 BP 日経ビッグデータ編集長
二宮 芳樹	名古屋大学 未来社会創造機構 モビリティ部門 部門長、 知能化モビリティ研究部門 特任教授

6. 配布資料

資料 1：議事次第

資料 2：出席予定者

資料 3：座席表

資料 4：評価資料（その 1）主要な経年データ

資料 5：評価資料（その 2）主な業務実績等

資料 6：評価資料（その 3）説明資料

別添資料 1：平成 27 年度計画（抜粋）

別添資料 2：評価項目及び評価方法

別添資料 3：産総研評価情報システム利用ガイド（評価委員のみ）

別添資料 4：評価コメント記入用紙（評価委員のみ）